

Interview

毎回「レイキな人」を迎えてお届けする、ゲストインタビュー。
テーマは、「癒す力・癒す心」です。

インタビュー



補い合う ということ

インタビュー・文/久一哲弘



脳神経外科専門医、認知症専門医
工藤千秋さん

くどう ちあき・1958年、長野県下諏訪町に生まれる。英国バーミンガム大学、労働福祉事業団東京労災病院脳神経外科、鹿児島市立病院脳疾患救命救急センターなどで脳神経外科を学ぶ。1989年、東京労災病院脳神経外科に勤務。同科副部長を務める。2001年11月、東京都大田区に「くどうちあき脳神経外科クリニック」を開設。脳神経外科専門医であるとともに、認知症、高次脳機能障害、パーキンソン病、痛みの治療に情熱を傾け、心に迫る医療を施すことを信条とする。漢方薬処方にも精通し、日本アロマセラピー学会認定医でもある。

工藤さんの言葉

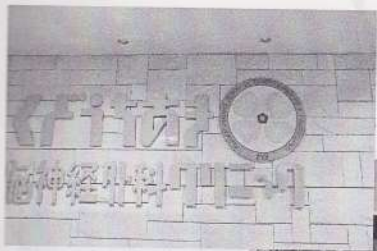
前号の「レイキの社」でご紹介した『エビデンスに基づく認知症補完療法へのアプローチ』の編者である、脳外科医の工藤千秋さんにお話をうかがいました。

工藤さんは、脳外科医として先端医療に携わりながら、現代レイキをはじめ、一般に民間療法と呼ばれている補完療法に深い理解を示すだけでなく、科学的なアプローチを積極的に行い、広く社会で認められるよう尽力くださっています。

ここでご紹介する工藤さんの言葉は、私たちレイキ実践者へのエールであり、貴重なアドバイスです。深く心に刻み込んでください。

最新技術でレイキを検証

まず、簡単に『エビデンスに基づく認



知症補完療法へのアプローチ』の内容をご紹介します。

認知症治療をテーマとするこの本は、大きく2つのパートに分かれています。最初のパートでは、脳電位(=脳波)とは何か、最新の脳電位測定方法である「NAT」と「DIMENSION」の解説、そしてこれらの新技術の認知症治療への活用について語られています。本書は医学書ではありますが、一般の人にもわかりやすく書かれているので、理解に苦勞することはありません。

2つめのパートでは、NATを用いた各種補完療法への評価の実例が紹介されています。アロマセラピー、音楽療法、鍼治療、マッサージ、ヨガなどと並んで現代レイキも取り上げられていて、現代レイキに関しては、土居先生とちも会長が解説を執筆しています。

NATを用いると、脳電位の状態が、脳の画像に付けられた色でわかります。赤いと不安定な状態で、青いと安定した

状態である、といった具合です。

つまり、ヒーリングの前後でこれを比べると、ヒーリングの効果が一目瞭然となるわけです。

現代レイキの検証は、ちも会長が星野顧問にヒーリングを行い、その際の脳電位の変化を比べることで示されています。星野顧問の脳電位は、ヒーリング前から安定していましたが、ヒーリング後はさらに安定したことがよくわかる結果が出ました。

「補完療法」の意味

ここで、大切な2つの単語について触れておきましょう。

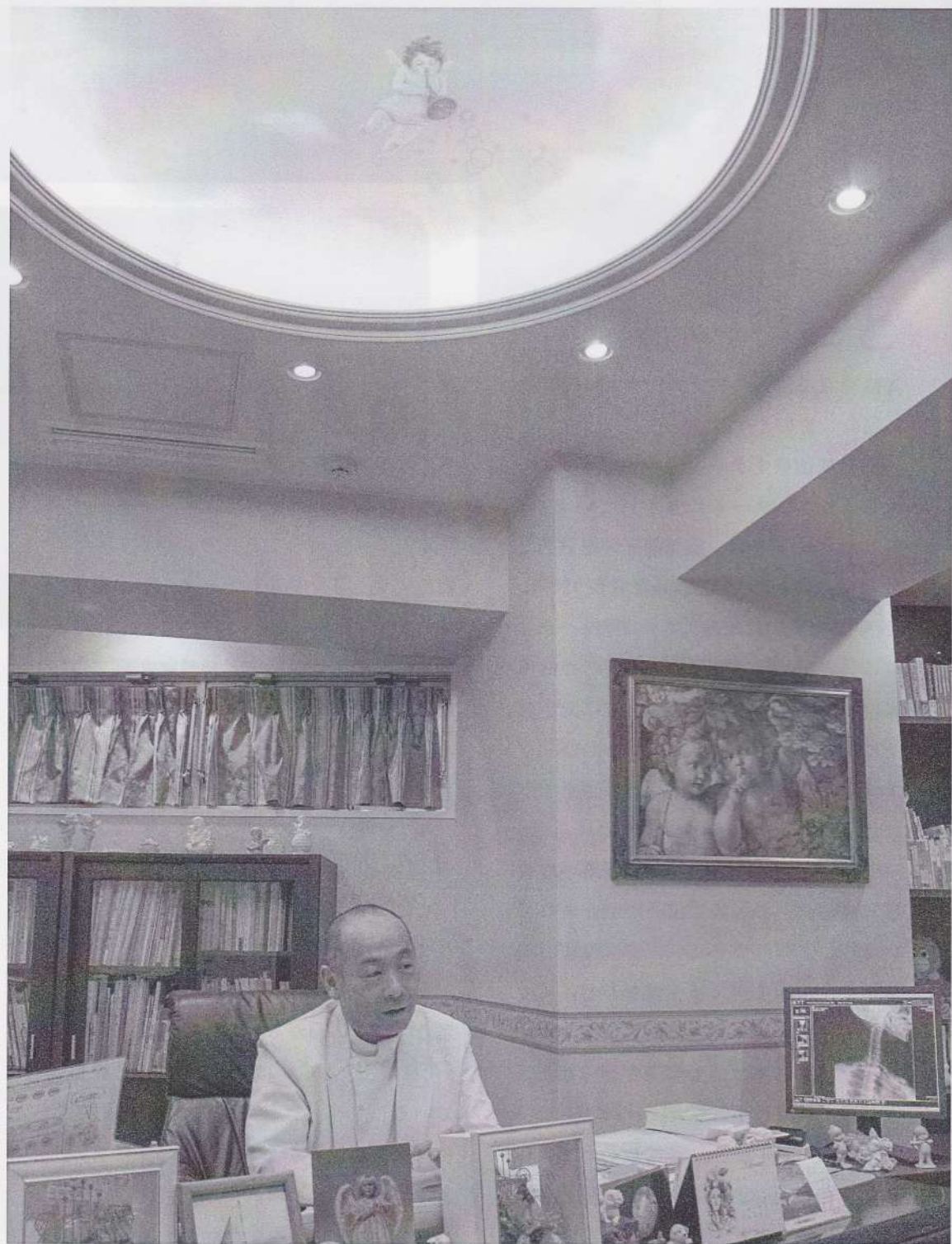
まず1つは「補完療法」です。これまで私たちは、いわゆる「民間療法」のことを「代替療法」あるいは「代替医療」と呼んでいましたが、「代替療法」と「補完療法」には大きな違いがあると工藤さんは言います。

「代替とは、文字通り代わりということ。

Interview

インタビュー：工藤千秋さん

脳神経外科専門医、認知症専門医





しかし、病院で行われている医療に、民間療法が取って代わることはあり得ません。能力や効果に違いがあるからではなく、アプローチしているもの自体が違うからです。

病院の医療がアプローチしているのは人間の“からだ”で、民間療法がアプローチしているのは“たましい”です。からだとはたましいは並列。たとえるなら、からだはエンジンで、たましいはオイルや空気です。どちらも同等に必要で、オイルがエンジンの代わりを果たすことはありません。

言ってみれば、エンジンの部品を修理するのが病院の医師で、オイルや空気をきれいにするのが民間療法に携わる人たち。専門分野が違うのです。

互いに補い合い、協力し合うことが本来あるべき姿だということ。つまり“補完”なのです。

便宜上、民間療法のほうを補完療法と呼んでいますが、だからと言って、決して病院の医療が主体であるという意味ではありません。互いに補完し合うのです。

エビデンスを得るために

もう1つのキーワードは「エビデンス」です。日本語に訳すと「証拠」「根拠」といった意味になります。

これまで、多くの補完療法は、その効果を実感し支持する人が広く存在するにもかかわらず、「科学的根拠がない」という言説をもって否定される実体がありました。玉石混合の実体の中で、詐欺まがいの治療を行う人たちが起こす事件にも、足を引っ張られてきました。

そこで求められるのが、エビデンスなのです。エビデンスが得られれば、信用度は高まるでしょう。工藤さんが最新の科学をもって行おうとしているのは、まさにこのことなのです。

「病院の医療と補完療法とが接点を持ち、その間を埋めて、互いにできないことを補い合うためには、エビデンスが必要です。しかしそれは補完療法の側には難しいことです。私たちが科学者が行うことで社会的信頼を得ていただき、「たましい」への働きかけで、医療を補完していただきたいと考えています。その方法のひとつとして、脳電位があるのです」

否定することへの反省

「明治以降、日本人は極端に西洋の文化を有り難がるようになりました。その権威の最大の拠りどころが“科学”で、歴史も実績もある東洋の文化を、自ら否定するようになってしまいました。そしていつしか、東洋医学ですら“あやしげ”

Interview

インタビュー：工藤千秋さん
脳神経外科専門医、認知症専門医

なものとして扱われるようになったわけです。

ところが、早い段階で自分たちに足りないものがあることに気付いた欧米の医療の現場では、東洋医学も含めた補完療法を積極的に取り入れていきました。いまでは、多くの病院に、セラピストやスピリチュアリスト、聖職者がいます。医療の最先端を走るアメリカは特に、日本と真逆と言っている態勢にあります。

日本は、互いに意識を改める必要があります。否定し合っているのは駄目です」

たしかに日本では、病院で「もう治らない」「原因がわからない」と言われた人が補完療法に頼るというパターンが多く、まさにそれは「代替りの医療」になっています。だから「うちなら治せませう」といった表現をする人も現れるわけですし、病院の側にも対抗意識が芽生え、端から否定することになってしまっているのでしょう。そしてそこに「にせもの」の混ざり込む余地が生まれ、補完療法全体に対する誤解が生じる結果となっているのです。

大きなエネルギー

工藤さんは「互いに原点に立ち帰らなくてはならない」と言います。

「宇宙、エネルギーはたしかに存在しま

す。そこへのアプローチの方法が、それぞれ違うというだけのこと。西洋医学がメスを持って細胞の世界に入っていくことも、対象は宇宙なのとも言えます。宇宙のエネルギーは、医療の先にあるのではなくて、もともとどこにでもあるもの。命という大きなエネルギーの前では、メスを持つことも、手をかざすことも、小さな流儀の違いに過ぎません。

原点は、健康を求めるとのこと。方法に目を奪われてはいけません」

工藤さんは「レイキヒーラーの常駐する病院が誕生することを願っています」とおっしゃってくださいます。

そのために、今後もNATによるヒーリング時の脳電位データを増やし、勉強会や研究会を開いていくことを提案しています。

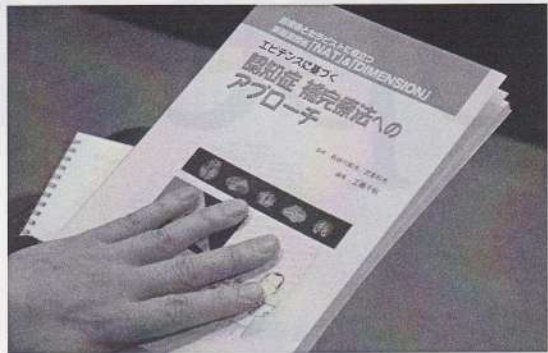
そして私たち現代レイキの会も、このプロジェクトに協力していきたいと考えています。まずは、ヒーリング時の脳電位測定を定期的に持つことから始めることになりそうです。進展があればご報告いたしますので、楽しみにお待ちください。

また、会員の皆さんにご協力を願う日もいずれくるかと思えます。その際には、どうぞお力をお貸しください。

会員の皆さまへ

工藤さんは、現代レイキの会を信頼してくださり、補完療法のエビデンスづくりを共に進めていこうとご協力されています。それは、現代レイキの会が「目指すところは安心立命である」「病気を治せると言ってはならない」「具体的な疾病がある人には病院に行くことをおすすめする」「テキストの内容を勝手に変えたり解釈したりしてはならない」「誤解を与えてはならない」といった約束ごとを、大切にしているからです。これからも、工藤さんをはじめ、レイキを信頼して下さる方々を裏切らないよう、そして社会の中でますますレイキが認められるよう、頑張っていきたいと思います。

自分たちを否定する人に対して怒らず、先行きを心配せず、理解者や仲間や先人たちに感謝しながら、日々研鑽に励み、癒しを求める人たちに手を差し伸べましょう。



医療者とセラピストに役立つ
新脳波技術「NAT」&「DIMENSION」
エビデンスに基づく
認知症補完療法へのアプローチ

(ばーそん書房)
定価 ¥2,940
会員価格 ¥2,646

購入ご希望の方は事務局まで、
メールあるいはファックスにてお申し込みください。

くどうちあき脳神経外科クリニック

<http://www.kudohchiaki.com/>

